

雲に乗ってくる

ルカによる福音書 21:25-28、34-36

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)

「太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々を見る。このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ。

放縦や深酒や生活の煩いで、心が鈍くならないように注意しなさい。さもないと、その日が不意に罨のようにあなたがたを襲うことになる。その日は、地の表のあらゆる所に住む人々すべてに襲いかかるからである。しかし、あなたがたは、起ころうとしているこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。」

説教

イエス・キリストはユダヤに生まれ死にました。そして再び雲に乗ってやってきます。キリストを信じることはやがて来るイエス・キリストを持ち望むことです。解放の時に人の子が雲に乗ってやってくる、その兆候は「太陽と月と星に徴（しるし）」だとルカ福音書には書いてあります。いまのところその兆候はありませんが、いつかその日はくるのでしょう。

U F Oを見た、という人がいます。わたしはU F Oを見たことはありませんが、雲に乗ってくるをU F Oに乗ってくると解釈できないこともありません。はっきりしていることはまだ解放の時はきていないので、キリストは再臨していないということです。

ヨハネは牢の中で、キリストのなされたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを

送って、尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」 マタイ 11:2-3

洗礼者ヨハネが獄中にあるとき、ヨハネは弟子たちをイエスのもとに送りイエスに尋ねました。イエスは肯定の返答のかわりに、躓くなといわれました。

イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」 マタイ 11:4-6

イエスさまは地上の生を生きられたとき、多くの人からメシアとたたえられました。またご自身もメシアとしてのふるまいをされています。キリスト教の信仰はイエスをメシアだと信じながら、メシアが再びくることを信じるという二重性があります。メシアはすでに来ているのだからもう充分じゃないかとはならず、再びくるキリストを待ち望むという信仰です。

キリスト教の暦では降誕節第1主日、第一アドベントから新年がはじまります。クリスマス=イエスの誕生祝いに備える4週間が始まりました。この備えの時にも二重性があります。イエスの誕生を喜ぶ意味と、イエスの再臨を待ち望む意味です。産まれて死ぬ、はじまりとおわり、このあいだにわたしたちは生きているわけです。

キリスト教はダイナミックに生と死をとらえ直しています。イエスは昇天し、ふたたび来る。死は終わりではなく始まりでもある。イエスの来臨はキリスト教のおわりと時でもあります。おわりがあることを喜ぶ、逆説的な信仰の一面です。ゆたかな祝福がおとずれますように。
